

## ② 組織の改善について

ア 副主任の立場が明確になり、主任と連携し、学年の先生方と共通理解を図る「要」となり、学年集団のまとまりができ、さらに、生徒への一貫した指導ができるようになってきた。

イ 学年委員会の指導が、係を設けたため、具体的にできるようになった。

ウ 学年奉仕部会の設置で、学級と生徒会が、有機的に結びつき、さらに、学年意識が向上し、意識的な活動が、多くみられるようになってきた。

## ③ 基本的生活習慣の確立を図るための実践について

### ア あいさつ

・学年、生活委員会の委員が、中心となり日常活動を行った結果、明るく、元気よくあいさつする生徒が多くなった。

・会釈は、自分たちの担当教師には行う生徒が増してきた。

・始め、終わりのあいさつは、個人個人に意義が理解され、係活動も活発になりよい傾向になってきている。

### イ 清掃

・整美委員会が中心になり、教師と一体となり、実践した結果、清掃のしかたが理解され、委員の指示で整列、仕事の内容・ねらいが明確になり、以前の活動より前進してきた。

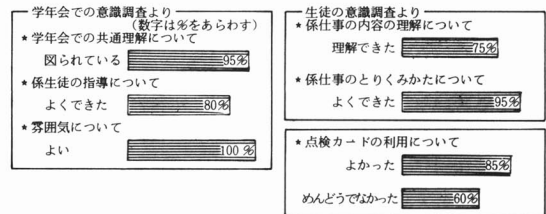
### ウ 時間

・学年、生活、学習委員会の委員が努力し、「できる」評価が多くなった。

・主体的に守る意識の変容がみられた。

・着席する姿と授業の準備がよくなってきた生徒が、多くみられた。

## (4) 全体の考察



① 意識調査より、組織改善と教師間の共通理解を図り、一貫した生徒への指導が学年会ででき、良い変容がみられた。

② 基本的生活習慣の内容を焦点化し、活動のねらい、内容、手だてが、教師生徒とも、相互理解され、身についてきた。

③ 定着度の低い点が明確になり、係の仕事の内容・方法が、生徒に理解された。

④ 生徒自身が、態度や行動を客観的にみつめ、自信を持ち係仕事を行うようになってきた。しかし、委員のなかには、点検活動が、まだめんどうだという生徒がみられることは、今後、点検の方法などに、改善工夫、努力が必要であろう。

## 6. 今後の課題

(1) 学年会での共通理解の度合いを、どの程度まで、深めていけばよいか。

(2) 点検のしかた、評価のあり方については、教師・生徒側ともに、工夫改善の努力が必要である。

(3) 基本的生活習慣の確立については、今回設定した三項目以外の内容を、さらに指導するとともに、生徒一人一人に内面化を図る指導を行い、実践力を身につけさせることが、今後の課題である。